

～ 愛知教育大学との連携による、
文化芸術を活用したまちの
魅力発見・にぎわい創出事業 ～

商店街の若手が地元の大学生と連携して企画・運営に当たり、街の通りや個店にアート作品を展示。併せて市民ボランティアの育成も行った結果、新規来街者やリピーターが増加し、アートとまちづくりに有機的に関わる商店街というイメージが形成された。

所在地：愛知県刈谷市桜町1-19
TEL：0566-45-6440 FAX：0566-45-6441
URL：<http://www.kariya-ekimae.com/>
組合員数：98名
商店街の種類：地域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景

JRと名鉄の刈谷駅から徒歩で5分の位置にあり、飲食やサービス業を中心とした業種が集積した商店街。周辺にはトヨタ自動車系列の大企業があり、ビジネスマンの利用が中心。朝から昼にかけては人通りが多いが、個店への立ち寄りはずいぶん多くはない。これまでも「飲み歩き」や「婚活」等のイベントを実施したが、賑わいは一時的で、来客は夜間に集中していた。そこで、恒常的に集客を図ろうと考え、愛知教育大学の学生や地域ボランティアの協力を得て、ギャラリー機能を備えたコミュニティ施設を設置し、アートによる地域コミュニティづくりを目指した。

実施した事業の概要

①カリフェス展覧会（平成26年10月1日～12月25日開催）

刈谷駅前商店街のアクアモール沿いを会場にしたアートイベント。2組のゲストアーティストと愛知教育大学美術講座の学生が「まちの魅力再発見」をコンセプトに、商店街やお店と様々な形で関わって行く中で新たに制作した作品を、街中や商店街の店舗に展示した。期間中は、通行人が展示された作品を記念撮影する光景が見られ、各店舗の顧客も作品を話題にするなど、賑わいや商店街のアピールにつながった。また、普段は商店街に足を運ばない客層の来街も促進された。

②Photoラリー&コンテスト（平成26年10月1日～12月25日開催）

まちに並べられた作品やまちの写真を撮影して投稿してもらい、コンテスト形式で入選者に賞品を提供。投稿された写真は、期間中スペースAquaに展示し、来場者にまちの魅力を発見してもらうきっかけとした。

③シンポジウム（平成26年11月23日開催）

「まち」と「アート」が関わる現場に携わっている方々と、アーティストの計7名のパネリストが、「アートがまちに何をもたらすのか」「アートでまちの魅力再発見は可能か」をテーマに意見を交わし、組合員や美術関係者、愛知教育大学の学生等21名が聴講した。

④ボランティア育成講座（平成26年9月14日、20日、21日開催）

会期中、会場での「展示作品の看視」「インフォメーションの受付」「会場案内・整理」の補助にあたるボランティア向けに、アートの専門家による座学講座を開講。また出展アーティストと作品制作に関わるワークショップも行い、市民や学生ボランティアと共にイベントを盛り上げていく土台を築いた。



成果と成功の要因



これまでは、主に学生だけで制作した作品が多く、完成度が物足りず、商店街とのつながりに欠けるという問題があった。このため今回は、イベント本番だけでなく、学生の学びや人材育成の機会になるよう、2組のアーティストを招き、学生とチームを組んで制作してもらった。また、制作過程の共有を重視し、作品の制作だけでなく、商店街のフィールドワークから搬出まで、全ての過程に関わってもらった。これにより、前回よりも作品の完成度が上がったほか、商店街と繋がりのあるコンセプトを持つ作品となった。また、カメラ講座

の開催と「Photoラリー」により、カリフェスへの参加を市民に促したことで、イベントの効果が実施期間のみでなく、年間を通じたりピーターづくりにもつながった。

今後の取り組み

今後も魅力的なアートの創出により、商店街のイメージアップに努める。作品づくりは街の人々とのコミュニケーションを前提に、地域住民の要望を踏まえて新たな文化向上の展開が生まれる仕組みづくりを目指す。また大学生だけでなく、消費者側にいた市民もボランティアに巻き込み、アートとまちづくりの有機的な関わりを学ぶ場をつくることで、今後の事業継続に必要な幅広い層の人材を育成していく。資金については、賦課金の充当のほか協賛金を募る等の方策を検討していく。